やお・かしわら

（じないまち・けんしょうじ）
寺内町・顕証寺

久宝寺に一歩足を踏み入れると道路がほぼ碁盤の目状に通っている事に気づくが、これが天文十年（1541）頃に顕証寺を中心として誕生した寺内町の名残である。周囲に大和川の水を引いた二重の濠を巡らし、濠と濠との間に土居を連ね、内側の各家には門が無く、四方の出入口には木戸門を設けて厳重な防備を固めたと伝えられる。子どもの頃誰もが見たような懐かしい佇まいが今も生きている久宝寺の町並みは、真直ぐな道の両側に軒の揃った町家が並んでいる事が特徴である。この様な町家の中に、土蔵・社寺・昔ながらの商家・地蔵堂・道標・水路等が通りのアクセントとなっており、450年以上の歴史を今に伝える生きた歴史の教科書といえる。こうした町割りは今も残っているが、濠や土居は、顕証寺の南西にその一部の名残を留めているだけである。顕証寺は、本願寺第八世蓮如上人が文明十一年（1479）この地に西証寺を建立した後に、顕証寺と寺号を改めた。本堂は、正徳六年（1716）の棟札があり、江戸中期に再建された記録がある。府内でも最大の規模を誇る建物で、桁行33.68メートル、梁間32.20メートルの入母屋造、向拝三間、本瓦葺である。境内地は現在約5千坪で、伽藍はかなり退転し、本堂と同時代の建立と見られる庫裏と裏門があり、明治年間に再建した鐘楼と表門が残るほかは、近年の建物である。かつては対面所・太鼓楼・含月亭等26余棟を有する大伽藍であった。中でも「含月亭」は慶長年間（1596～1614）本願寺第十二世良如の命を受けて薮内宗匠が造営したものを本山から移築したと伝えられ、これが正しければ、本願寺飛雲閣の前身のもので注目を浴びるが、近年取壊されたのは惜しまれる。（新田俊明）

大きな甍の顕証寺の本堂

懐かしい佇まいを残す町並み

町割りの名残を留めている濠や土居の一部

所在地：八尾市久宝寺 4-4-3
最寄駅：JR 大和路線 久宝寺駅下車 北へ徒歩 約 8 分
見 学：顕証寺境内は自由　TEL：072-993-1144
問合せ先：寺内町ふれあい館（八尾市まちなみセンター）
TEL：072-924-6371